

平成26年度 佐久長聖高校 学校関係者評価

評価 A：十分できている B：概ね十分できている C：普通である D：不十分などところがある E：ほとんどできていない

分野	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
学習指導	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を検討して、生徒の学ぶ意欲を喚起する授業ができたか。	B	授業開始時に前時の復習ドリルを行い、解説、回収することで生徒の理解度を確認し授業に活かした。習熟度別の基礎クラスでは学ぶ意欲をなかなか上げることができなかった。様々な学力層の生徒に興味・関心を持ってもらえるように教材選択を心掛けた。学力差の大きいクラスでのポイントの絞り方が難しい。生徒が意欲的に取り組みたいような授業を工夫する必要性を感じる。
	教科指導力の向上	2 研究授業や教員相互の授業参観を実施し、授業の質的向上に役立てたか。	B	他教科の研究授業を参観することで自らの授業に多く取り入れることができた。研究授業で授業のあり方・分析の仕方・方法について確認し、自己反省・改善に結びつけられた。ベテラン教員の授業や難関大学受験のための授業を見る機会を設けたり、個々の教員が積極的に授業参観をする機会を増やしていきたい。授業を参観しあう機会を増やし中高教員間の連携を図りたい。基礎の定着を可能にするような授業研究も必要である。
		3 模試・検定結果を教科内で分析し、生徒の学力に応じた授業を実施したか。	A	模試ごとに弱点分野を洗い出し、授業で類似問題を演習、解説することで同じミスを繰り返さないように努めた。模試、確認考査等のデータを分析し、生徒の学力を踏まえ実態に合わせた授業ができた。教科内での分析が不足していた。
	学習習慣の確立	4 学習状況・学習時間の定期的調査と面接指導で、適切なアドバイスができたか。	B	生活記録で毎日、生活の様子、学習時間の把握に努めた。学習時間が安定しない生徒個々への指導が必要。強化部の生徒の学習時間の確保をどう図るか。意欲の高くない生徒への声がけに工夫を要する。クラス担任だけでなく教科担当の先生が面接して、時間の使い方や学習のしかたを指導している場面が増えた。生徒により学習量に差があり、時間の使い方などについてさらに適切な指導・助言を継続する必要がある。
		5 授業効率を上げるため、生徒の授業に臨む姿勢の育成・指導に努めたか。	A	50分授業に対応し効率を上げていくため内容の精選が課題である。授業プリントの使用、毎時間のドリル実施とそれに伴う授業開始前の姿勢作りに努めた。授業に集中できない生徒については教科担任と連携して指導していきたい。わからない問題に対してすぐにあきらめてしまう傾向があるので粘り強さも身につけさせたい。基礎学力の不十分な生徒が多いクラス・講座でどのような工夫ができるか、方策を確立させてほしい。
進路指導	希望進路の実現	6 3年間を見通した計画に基づいて指導が行われたか。各学年と係の連携が十分であったか。(模試・補習・進路講話・大学研究会・勉強合宿等)	B	模試と補習などをリンクさせながら進路実現に向けての学習向上の方策を常に考えることができた。大学研究会などに参加する機会を増やして十分な情報提供に努めたい。学年教科会の定期的な実施により学習指導の意思統一および情報の共有がさらに必要。類、文系理系ごとの統一した視点を徹底し、学年全体で向かう方向性についての議論をより深めていきたい。全体を把握、指導し、継続性や客観性を持たせる立場の進学係を機能させる必要がある。
		7 進路指導に生かせるようなデータ整備・分析ができたか。	A	模試の結果、職員会資料などを用いて成績の傾向を把握し弱点分析ができた。各種システムの活用を研究してほしい。
		8 勤労と職業観を育てるキャリア教育を実施したか。	B	大学教員による本校での特別講義の実施により生徒の学ぶ意欲を喚起した。卒業生の講話を企画できた。LHRなどの機会を利用して有効な手立てを講じることはできなかった。授業時に情報提供を心がけた。保護者や卒業生の協力も得て、キャリアガイダンスを充実させていきたい。学年としての計画性ある実践をしてほしい。
生活指導	自立的生活の確立	9 服装・挨拶等、生徒の自律的取り組みの支援ができたか。	B	立門、SHRなどで声がけをし、休み時間等にも気づいたら声をかけ制服を正した。積極的に取り組んでいて挨拶・制服は良くなった。言われないと動けない生徒もいるので自律的取組へは継続指導が必要。
	生徒相談の充実	10 担任・学年・部活顧問・生徒指導係等が連携を取りながら適切に生徒相談に乗れたか。	A	問題行動となる前に連携して見守ったり面談をして導くことができた。学年内の連携はよく取れていた。相互の情報交換は活発になされており、学年を越えた指導態勢が整っている。もっと深く生徒の内面に入っでの指導が必要である。館生については情報交換が良くできている。生徒からは余り相談に来ないので、教師側からの声がけが必要。
	安心・安全な学習環境の確保	11 校内の清掃美化が進んだか。 定期的な巡視・立門指導・交通安全指導ができたか。	A	トイレ清掃は職員が指示しなくても自主的に取り組む生徒が増えた。教室整備にはクラスによる差がある。清掃のしかたを工夫し短時間でいかに早くきれいにできるかを意識して生徒と協力して行った。一方、教師が見ているときと見ていないときで生徒の行動に差があり指導に苦労した。計画的に立門指導、巡視ができている。女子生徒の登下校時の安全確保を図ってほしい。
	いじめの早期発見	12 いじめの早期発見と対応に努めたか。	A	いじめが起こる前の具体的な注意ができた。職員間のごまめな情報交換が必要。友人関係への目配り、生活記録による生徒の心情把握に努めた。日常的に対話を多くするように努めてほしい。
開かれた学校づくり	開かれた学校づくり	12 地域や保護者の意見・要望に対して迅速に対応できたか。	A	気になることがあれば保護者と連絡を取り、生徒の様子について情報交換をした。他の職員と情報や結果などを共有していく必要がある。特に成績不振者・館生の保護者との連絡を密にする。保護者の意見を聞く環境を整えたい。
		13 ホームページや学年通信を通して、各種情報を生徒や保護者に提供できたか。	A	学年通信・学級通信を発行し、生徒の様子や必要な情報を提供しているが保護者向けの情報をさらに多く提供するように努める。館だよりを発行することで生徒の様子を提供している。保護者が期待感を持ってもらえるように要望にも応えたい。ホームページ掲載内容は運動部以外の話題を増やしてほしい。
		14 情報を積極的に発信し、地域との連携を深めたか。	B	地域との連携をより深め、地域に認められる存在であることが大事。地域との関わり方について探ってゆきたい。甲子園出場・記念事業などで地域との関わりを持てる年になった。